

佐藤健司 県政報告 vol.4



昨年11月県議会では、国政政党の代表職と知事職を兼務する嘉田知事の政治姿勢が大きな議論を呼び、兼務を続けることは県政の課題解決を図る上でも大きな支障があると追及しました。本年も県民の皆さんの暮らしに寄り添う県政の実現を目指し、地域に根ざした視点を大切に全力で取り組んで参ります。皆様のご指導、ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

近江大橋の無料開放が正式に決定

今年12月、近江大橋が無料開放されるのを受けて無料開放後の周辺道路の渋滞対策や維持管理のあり方について県の対応を質しました。

質問では、周辺道路への影響を把握する調査の早急な実施を求めるとともに、維持管理の経費として21億円に上る県の出資金の活用や橋へのネーミングライツ（命名権）の導入を提案しました。



Q 県の出資金を近江大橋の維持管理に活用する考えは？

A 他の道路事業や管理がよろそかにならないように、出資金を活用してはとの提案も踏まえ必要な財源を確保するよう努めていく。

Q 無料開放後の周辺道路の対策について？

A 周辺道路への影響を把握するためのシミュレーションを平成25年度早々から実施する。また、無料開放後についても交通の変動状況を見極めた上で、関係機関と協議し、必要な対策を講じていきたい。

児童虐待防止の体制強化へ

児童虐待の相談件数が年々増加する中で、これまでも県内に2ヶ所ある「子ども家庭相談センター」の充実を求めてきました。

こうした中、11月県議会での当会派の代表質問で嘉田知事は「専門的な相談をどう強化していくか児童相談所の増設も含めて検討していきたい」と表明しました。厚生産業常任委員会で改めてこの問題を取り上げ、今後、有識者などによる検討を行い、県の方針がまとめられることになりました。

防災対策特別委員会の活動から



大飯原子力発電所の緊急対応の拠点となるオフサイトセンターを視察し、意見交換を行いました。新しい安全基準をめぐる国の動向を注視しつつ、県に対して原子力事業者との安全協定の一日も早い締結を求めています。